

Photo Space

現代写真研究所

〒160-0004

東京都新宿区四谷 3-12 サホ®ビル 5.6F

03-3359-7611 (TEL) 03-3355-1462 (FAX)

<http://www.genken.ac>

jimukyoku@genken.ac

ロゴデザイン：富樫茂美

責任編集 金瀬 胖

AUTUMN 2023.9.30 NO.15 2022 年度現研年度賞・奨励賞おめでとう特集

禁無断掲載 許可なく作品の使用はしないでください。



本号は現研年度賞をご紹介します。どれも素晴らしいです。よくご覧ください。
体調くずしてしまい発行が遅くなり申し訳ありません。

上野・夏休み 2023年7月 金瀬 胖

現研のキャッチコピー「写真もあなたの言葉です」の「言葉」をどう理解するかを、文化が衰弱、野蛮化している今の時期に考えるのは意味があることと思います。文も写真も誤読されるものですが、それはそれぞれ新しい独自の理解、真摯にむきあえばいいと思います。ここでは池田晶子+若松輔の言葉から二つを紹介します。

言葉を写真と読む。

子曰く、学びて時にこれを習う、また説ばしからずや。

朋有り、遠方より来たる、また楽しからずや。

孔子は言った。学ぶべき時に習う、こんな喜ばしいことがあるのか。朋〔友〕がいて、遠方からやってくる。なんと楽しいことか。彼ら陽明学派には、ただ、少数の本による心友の交わりを結ぶことができただけであったが、その彼らに確実にできたことは、確実に、空想を交えずにやり遂げられたのである。彼らが願ったのは、学問の伝達や普及ではなく、学問をする人々各自の自覚であった。遠方から来る友を待つとは、彼らが高度のものとして信じていた自分たちの学問の質の低下を防ぐための必須の条件であった。

高度情報化時代、遠方から来る友を待つのは、逆に至難である。質の低下は防ぎ難い。しかし言葉だけは裏切らない。人を信頼することの喜びは、未だわれわれから失われてはいないのである。言葉だけが、時代を越えて、われわれを強く結ぶことができる内なる生きた紐帯なのだ。

邂逅は流れる時間の世界では起こらない。それはいつも「時」の次元で生起する。時間は過去となる。だが、「時」は過ぎゆかない。それは生者によって呼び覚まされることで、いつも「今」にのみがえる。生者間で起こったときでも、そこに立ち合う者はともに、けっして古びることのない時空が存在することを知る。その境域は万人に開かれている。読む、書く、聴く、あるいは感じることによってコトバにふれる。そのとき私たちは、「時」の世界へと誘われる。

教務主任・金瀬 胖

contents

特集 現研 2022 年度賞

年度賞 富樫茂美

特別賞 高橋美保

特別賞 平山 謙

特別賞 大山幸子

奨励賞 新沢久美子

奨励賞 徳田暁彦

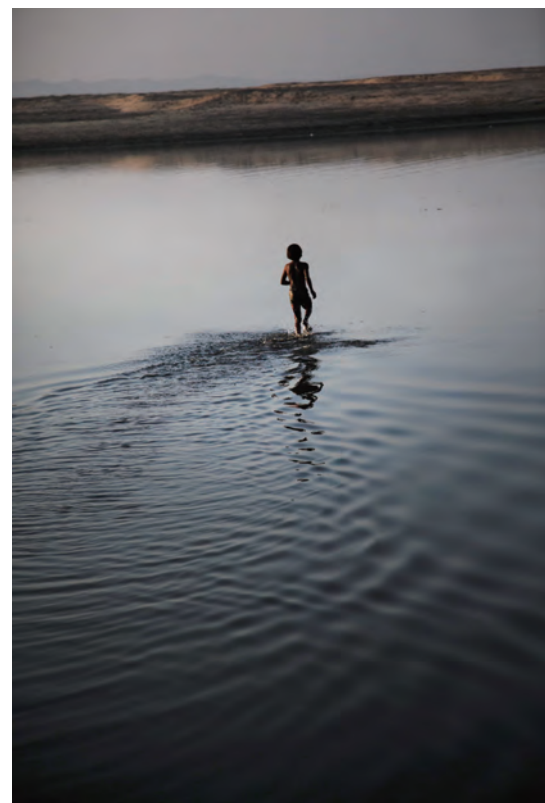
奨励賞 江田悟志

奨励賞 伊藤 亨



現研年度賞 「エーヤワディー川」 富樫茂美（土曜ゼミ）

古都バカン。タージャー村、夕刻の岸边にて



年度賞 富樫茂美「エーヤワディー川」

この写真はある目的や思いを強く表そうとする類のものではない。写真は作為を抑えたんたんとしている。その結果、川の流れとともにある時間と暮らしの美しい姿が見える。その美しい時間の持続を願うかのように、そしてまた自分がミャンマーで何を捉え得たかを問うかのように、写真は静かに並べられている。秀作である。

記・金瀬胖



特別賞 高橋美保写真集 『MINDSCAPE in the woods』

作者は「人間の自然に対する征服・支配の意識が減退して、森の語る言葉を理解するようになることに希望を持ちたいと思う」という。この本は森を環境や風景のイメージをフレームに収めることを目指しているのではない。環境とは、わたしたちを取り巻く固定したものではなくて、わたしたちの内から外から貫き交換している連続的な何かである、と私は思う。よく見ていただきたい力作である。

記・金瀬胖



特別賞 高橋美保写真集 MINDSCAPE in the woods」



特別賞 写真集「羽田浦写真帳」 平山謙（連続講座）

羽田空港に隣接する多摩川河口の風景と、住民の日常の姿を10年かけて丹念に記録した写真集。水辺に憩う人々、飛来する野鳥の群れ、季節と時間帯であざやかに変化する空の色、川面が青色に輝く夕暮れの河口風景は息をのむ美しさ。

（記・英伸三）



初蝶を追うてあなたを見失ふ
はつてふをおうてあなたをみりしなふ



精霊の光かと夏の夜の夢
せいのひのかりかとなつよのゆめ

まどろみ

「巴里に死す」読み終へし夜のリラ句ふ
ぼりにしすよみかへしよのせらにほふ

50



遠い日の香りを連れて沈丁花
とほいひのかほりをつれてぢんぢやうげ

暁の濡れて仔牛の春の夢
まなじりのぬれてこうしのはるのゆめ

春愁の少女の吐息かもしれず
しゆんしうのせうじよのといきかもしれず



春の夢逢ひたき人へ逢ひにゆく

特別賞 「陶子の恋」 大山幸子

今までたくさんの写真句集を見てきましたが、これほどロマンチックな雰囲気を持った本は初めて見ました。大山さんの心根を汲み取り、形にしたデザイナーとの合作の賜物なのでしょう。(記・尾辻弥寿雄)



奨励賞「風走る—新潟 直江津—」 新沢久美子（尾辻ゼミ）

対岸の巨大な石油タンクと風力発電のプロペラの前の逆巻く日本海、人影のない通りにとり始めた明かりもやがて消えて、あとは風の音だけ。10 数年ぶりに帰省した作者は、夜半にふと目覚め、吹き抜ける懐かしい海風の音を聞いた。記・英伸三



奨励賞 「兵六の曼荼羅」 徳田暁彦（総合科）

古書の街、神田神保町路地の70年前創業の「兵六」は、コの字カウンターとテーブル2卓の小さな居酒屋。店主と薩摩芋焼酎を慕って集う42人の姿を「兵六」の提灯を中心に52枚の写真曼荼羅にまとめた。作者とほろ酔い客の幸せの時間。 記・英伸三



ウクライナから来たサラ



エジプト大使館の受付

奨励賞 「旧山手通り」江田悟志 モノクロフィルムワークショップ

大使館や教会が並ぶ街のエキゾチックさと、人物全てが外国人という視点が目を引きました。作品 27 点の展示が、異国の暖炉の部屋の家族写真を模したのも、こだわりなのでしょう。 記・尾辻弥寿雄



サミットから出てきたイリーナ



あまり乗っていないフェラーリ



写真展の会場に来た人



https://www.instagram.com/satoshi_edo_/



奨励賞 「流浪の街」伊藤亨 入江ゼミ展「共生」より
果てしなく続く東京の街の工事。街としての完成形が見えない東京の無限開発です。そこに
作者の感じる「街が流浪するという表現へたどり着いたのだと思います。 記・尾辻弥寿雄